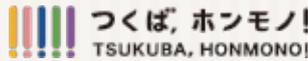


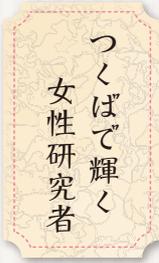
放射光実験装置の前で



高エネルギー加速器研究機構(KEK)  
物質構造科学研究所 助教

Masako Sakamaki 酒巻 真粒子さん(35)

群馬県生まれ。千葉大学理学部卒業後、同大学院融合科学研究所で物性科学を学び博士号(理学)を取得。現在は高エネルギー加速器研究機構(KEK)で放射光を用いた磁性薄膜の研究に従事。



ながる技術として期待されている。将来的には現在のハードディスクにとって代わるかもしれない。いろいろな産業で利用されている磁石ですが、未知の部分も多くあります。実験を積み重ねて解析する中で、日々新しい発見がある

《磁性薄膜の可能性》  
厚さ数ナノメートル(10億分の1メートル)の薄い磁石(磁性薄膜)にX線を照射して性質を調べ、磁力の源となるスピントロニクスを研究。電界によって磁石の性質を変えられることで省エネ化が可能になり、新しい記憶媒体の開発につながる



共同研究メンバーと

## 出会いに導かれ 未来の新領域へ



「バッハの森」メンバーと

《憧れを現実》  
興味深い分野だと思えます。高校時代に数学と物理に興味を持ち、千葉大学理学部に進学。大学1年の冬に友人の紹介でKEKの研究施設を見学し、さまざまな分野の研究者が集まり大型の装置で実験を重ねる壮大さに感銘を受けた。大学入学直後には進路で悩んだこともあったが、この体験や大学時代に出会った人の影響もあり研究職の道へ。現在所属する放射光科学研究施設ラオトンファクトリーには、全国から多くの研究者

が実験に訪れる。「専門外の研究に触れる機会も多く、好奇心旺盛な自分の性格に合っています。今年訪問したマンチェスター大学(イギリス)では、国際的に研究者をリードする女性研究者と出会い、自由な発想で新しい研究に取り組む姿を目の当たりにした。「物理や化学、工学など分野を分けて、専門外の分野も融合することで新しい発想が生まれる。やるからには研究を楽しみ、社会にとって意味のある結果を見い出したい」との思いが湧いた。

### つくばの暮らし

今年、同じKEKに勤務する研究者と結婚。「毎朝一緒に通勤していますが、帰りはどちらかの仕事が終わるまで待つのがルール。お腹が減らしながら私が待っていることが多いです」と笑顔。幼い頃からの趣味の絵画ほか、歴史や音楽に興味も。週末は市内にある「バッハの森」の合唱グループで交流を深めている。